

## 「秘密の袋」

中身が見えない巾着袋を準備して、袋の中に自然物を入れ、子どもに中身を触覚を通して考え、当てさせる遊びです。

### 遊びの例

- ①中身が見えない適当な大きさの巾着袋を準備。  
袋の大きさは、小学生が手を入れて、中身を探ることができる程度であればよい。
- ②3種類の本の葉を入れる。  
触って、違いがわかりやすい葉から始める。  
ギザギザ・つるつる・大小・厚い薄い・ねばねば、など特徴のある葉で、境内にあるもの。  
ひいらぎ・もみじ・いちょう・もちなど。
- ③参加者が順番に袋の中に手を入れて自然物に触る。  
このとき、中身が見えないように手を入れ、手が入ったら袋の口を絞る。  
同じ条件になるように、手を入れている時間（10秒とか）を決めておく。  
自分で中身を考えるが、決して口には出さないよう約束する。
- ④自分で考えた中身と同じ葉を1枚ずつ境内から集める。  
葉も生きものなので、無駄に採らないように呼びかける。
- ⑤集めた葉を見せ合って、袋の中身を出して確かめ合う。
- ⑥葉を押し花にしたり、ラミネートフィルムではさんで葉にしてプレゼントにする。

